

“個別指導を経験して”その実態と顛末

尼崎市 高田循環器内科 高田 正 (医師)

新規開業以来15年目で個別指導を受けた。無難に善良に日常の診療をこなしてはいるが、受付医療事務は5名全員がアルバイトで請求に迷う事しばしば。保険診療便覧をみるか保険医協会に問い合わせるかで対応するという状態の為、突然に指導を通知された心理的ストレスは大きかった。文面は丁寧だが慇懃無礼で一方的な感じがし、どんなミスがありいかなる指摘をうけるのか？ わずか30冊のカルテで診療のすべてを判断されるという圧迫感があった。

当局は直近1年間の内の連続2ヶ月のレセプトで予め指導箇所をチェック済みの様であった。指導開始直後は未診療投薬の有無や自家診療の自己負担分の徴収の有無などは詰問風であったものの総じて教育的指導であった。見解の相違はあったが指摘事項や自主返還事項はこちらのミスや勉強不足などおおむね納得すべきものであった。

なぜ指導対象に選定されたのかについて若干の考察も交え報告する。個別指導が決まり即保険医協会から指示された対策が大いに役立った。